

尼崎市立園田東小学校の豆島上陸環境学習会



実施日 2021年6月23日(水), 6月30日(水)

実施場所 兵庫県尼崎市立園田東小学校, 豆島

編集著者 出会いの島・豆島プロジェクト事務局長 出本 眞次

昨年に引き続いて、今年で2回目の尼崎市立東小学校での事前学習と豆島上陸環境学習会を実施した。

6月23日 豆島上陸環境学習事前講座

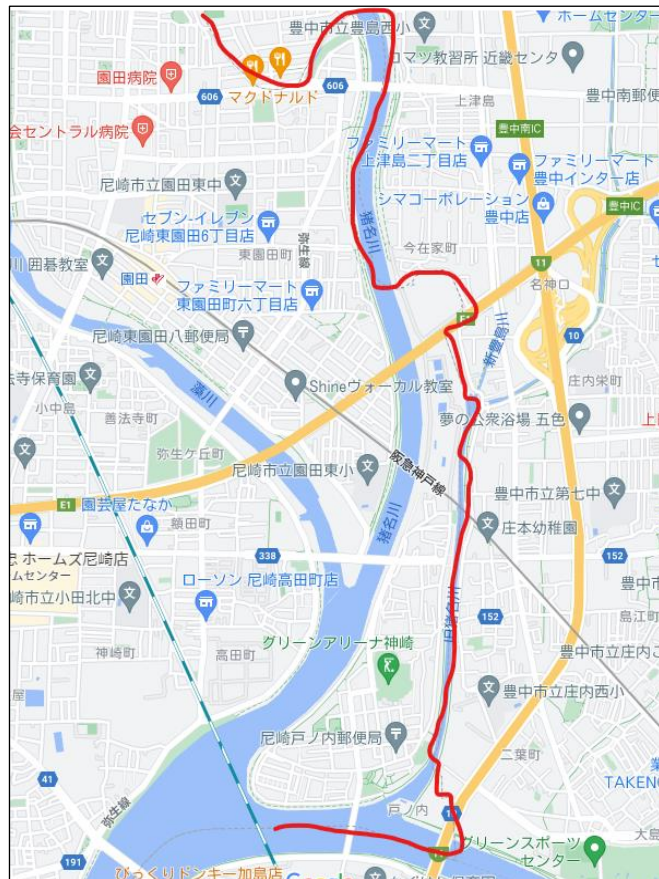
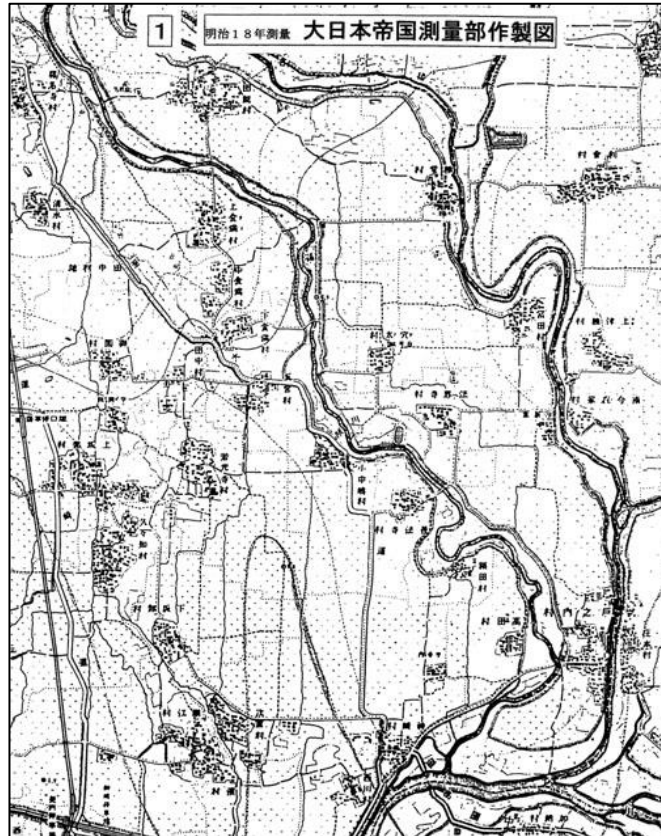
9時35分からの1時限学習を実施。最初に、豆島プロジェクト代表の山口さんより「豆島と猪名川とその周りの歴史」について、昔の地図や航空写真を示しながら豆島が出来るまでの歴史、川の改修工事が行われた前と後などを説明した。

その後、出本が「豆島の生態系について～森は海の恋人～」と題し、山と川と海はつながっている、豆島は小さな森であり、森と川、海の生態系の縮図であることを説明した。そして、豆島の付近に生息しているウナギは不思議な旅をすることを説明した(下記参照)。

豆島と猪名川とその周りの歴史(山口)

いながわ

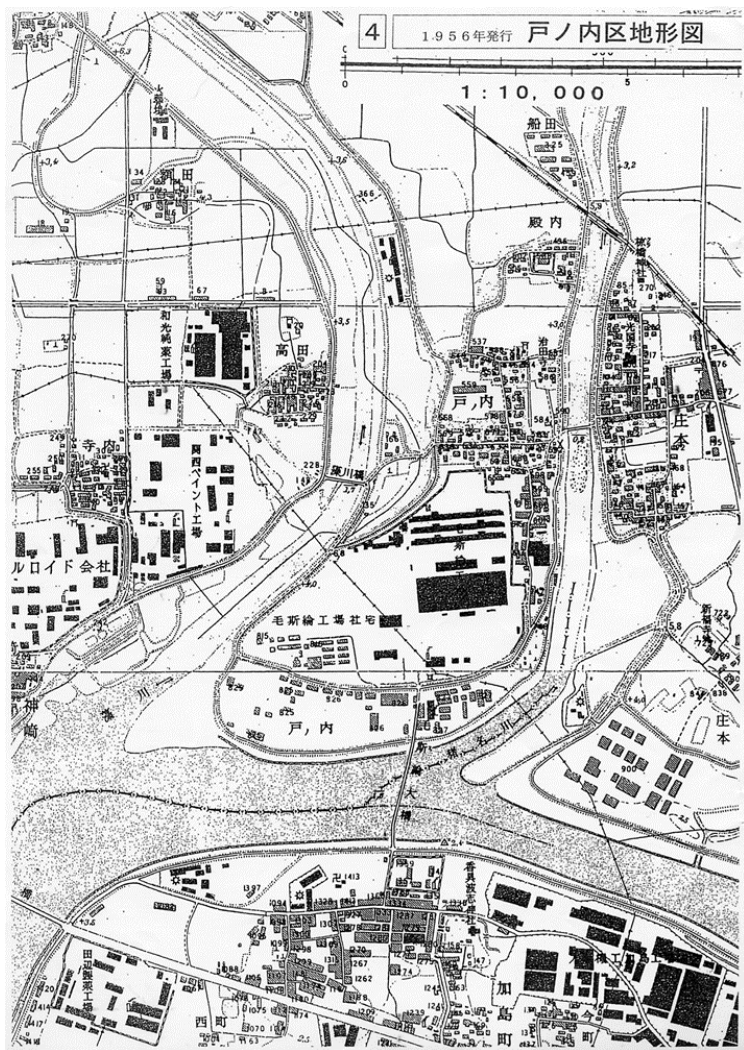
1. 今、小学校の東側の猪名川は昭和37年頃に出来た川です。
2. それまでは、今、豊中市との間にある旧猪名川と言われる川が猪名川だったのです。そして元の猪名川も藻川も曲がりくねった川でした。



3. だから、今小学校のある東園田7丁目、8丁目も戸ノ内でした。

やよいがおかぼち

昔、戸ノ内はもっと広く東園田6丁目あたりや、藻川の向こうの弥生ヶ丘墓地の一部も戸ノ内だったと言われています。



▲左が昭和31年ころの地図、右が同じころの上空からの写真。右上に走る斜めの線が阪急電車の線路。

4. 昔々、戸ノ内は^{くらはし}棕橋と呼ばれてました。今は棕橋と言う地名はありませんが、戸ノ内町2丁目と豊中の間にかかる橋が「棕橋」で、橋の向こうの豊中市庄本に「棕橋神社」などの名前が残っています。
5. 昭和5年の国勢調査では、園田村7,855人で、その内、戸ノ内は2,211人、第2番の上坂部は1,139人とダントツでした。
6. そのころ、今のゴルフ^{れんしゅうじょう}練習場の所にモスリン^{ぼうせき}紡績の工場がありました。

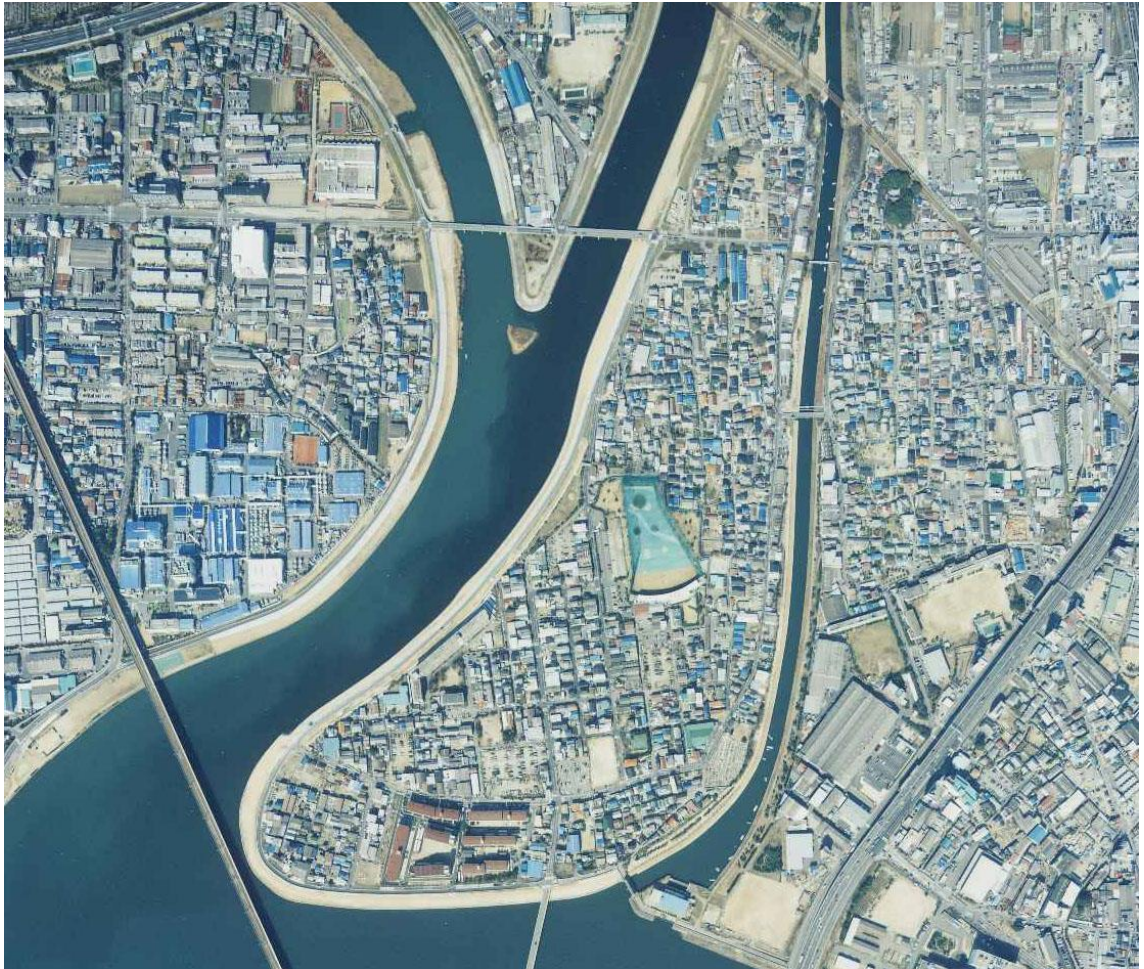
その会社が大阪の加島との間に橋をかけ、それを村に^{きぞう}寄贈しました。

今の橋はその時の橋とは違いますが、今のモスリン橋の始まりです。



7. 上の写真は新猪名川ができたころの写真です。猪名川と藻川が一緒になる所には先がとがった形になっています。
8. 昭和60年代の始めの堤防^{ていぼうこうじ}工事により、先が丸くなり、今の「豆島」が切り取られ

て残りました。



9. この「豆島」は猪名川・藻川^{かりゅう}の一番下流にあるため、上流から色んな木、草、花の種が流れてきて、猪名川・藻川全体の木や花が「豆島」にはあります。また、この辺りは海から海水も流れてきて、川の魚も海の魚も見ることが出来ます。

10. それらは来週、「豆島」で説明^{せつめい}を受けて、草や木や花や魚を見て下さい。

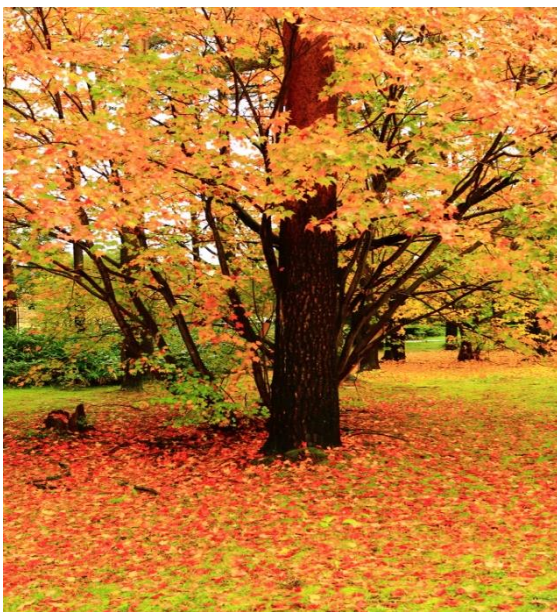
豆島の生態系について～森は海の恋人～（出本）

1. 山と川と海はつながっている

山が健康でないと、海の生き物も育たない。スギやヒノキなどの針葉樹の山だけでは、昆虫や鳥、動物も生きて行けない。山で広葉樹、落葉樹の落ち葉や生き物の糞や養分が山を育て自然を育てる。多様な植物が育っていて、山の恵みの実のなる草や木が無ければ、山には熊やリスなども生きて行けない。

山に降った雨が山の栄養の鉄やカルシウム、リン、窒素などミネラルを水に含んで、川に入り海に運んでくる。

山の養分をもとに、植物プランクトン、動物プランクトン、海藻、カキや貝、エビやカニ、ハゼ、ウナギなどを育てて、水辺の生き物の連鎖が始まる。



▲広葉樹、落葉樹 広い葉の落葉樹の葉は、分解しやすく山の栄養になりやすい



▲針葉樹……葉っぱが針のようになっていて、落葉しても分解しにくい

2. 豆島は小さな山であり森魚付き林、魚やカニやエビの住みかである

「豆島」は小さな森と川の生き物の生態系の縮図のため、島の多様な植物の植生、昆虫類等の繁殖で島の周りには生命のつながり出来ている。川の生き物は豆島からのミミズや昆虫類を餌に出来、多くの魚やカニやエビ等が住み着いている。山と川と海はつながっていて山の栄養が川によって、海にもたらされて、多くの生き物が豆島の付近に暮らしている。

豆島は、汽水域（海の水と、真水の川の水がまざっているところ）にあるために、海の魚と真水の川の魚が共に生活している。海の魚チヌ、ボラ、川の魚鯉、鮒などである。

その中で、豆島の周りに住んでいるウナギは5年から10年たつと産卵の為に日本から遠く離れたマリアナ海溝までの3,000kmの旅に出て、新月の夜に、甘い海水と辛い海水の境目の塩分フロントで何万匹と親ウナギが集まって一斉に産卵する。産卵された卵は、最初は葉っぱのような形になり海流に乗って再び半年かけて3,000kmの旅をしながらシラスウナギになり、また豆島の付近に帰ってきて生活するウナギもいる。

広い海の何を目標に旅が出来、産卵場所までたどり着け、みんなが一箇所に集まり産卵できるのか？ マリアナ海溝まで続く海底山脈の何らかの磁気や匂いを感じて旅をするのか？ まだウナギの生態は分かっていない。

豆島付近に生息する魚やカニやエビ



ウナギ



カワアナゴ



マハゼ



ウキゴリ



ボラ



ゴクラクハゼ



モクズガニ



ヌマエビ



テナガエビ



ヌマチチブ



アユ



カマツカ

6月30日 豆島の観察報告

豆島プロジェクト（山口・出本・藤原）

船の運航（長谷川育生、他1名の方）



1. 集合場所（おおぞら広場集合）
2. 集合日時 2021年6月30日9時30分
3. 内容
 - 9時40分 豆島プロジェクト山口代表「豆島のお話」
 - 9時50分 藤原樹木医「生き物観察・指導」、
 - 10時10分 船着き場に移動後33名乗船（救命胴衣）
 - 20分 舟から魚や野鳥を観察
 - 30分 船で豆島上陸（生き物観察）
 - 11時30分 舟付場の堤防付近でまとめ、解散

観察した生き物（藤原）

- (1) 鳥類 {コウノトリ目サギ科（アオサギ、コサギ、ゴイサギ）}
{ペリカン目ウ科（カワウ）} {カモ目カモ科（カルガモ）}
{スズメ目ムクドリ科（ムクドリ）、ハタオリドリ科（スズメ）、カラス科（ハシブトガラス）}
{ハト目ハト科（ドバト）}



アオサギ（水辺から魚を狙う）



ゴイサギ（枯れ木から魚を狙う）



カルガモ

(2) 両生類 (アカガエル科ツチガエル、アマガエル科ニホンアマガエル鳴き声)



枯枝上ツチガエル



モンキチョウ幼虫

- (3) 昆虫類
- チョウ目 {(アゲハチョウ科 (ナミアゲハ、アオスジアゲハ)、シロチョウ科 (モンキチョウ)、シジミチョウ科 (ヤマトシジミ)、ハマキガ類)}
 - バッタ目 {オンブバッタ科 (オンブバッタ)}
 - ゴキブリ目 {チャバネゴキブリ科 (モリチャバネゴキブリ)}
 - カメムシ目 {アメンボウ科 (アメンボウ)}
 - ハエ目 {カ科 (ヒトスジシマカ)}
 - ハチ目 {スズメバチ科 (キアシナガバチ)、アリ科 (アメイロアリ)}
 - コウチュウ目 {オサムシ科 (ゴミムシ、セアカヒラタゴミムシ)、テントウムシ科ナナホシテントウムシ、ハムシ科 (ヨモギハムシ)}



アメンボウ群

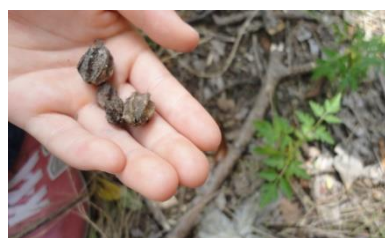


ゴミムシ

(4) 軟体動物腹足綱 {有肺目オナジマイマイ科 (セトウチマイマイ)}



セトウチマイマイ



センダンの種子

(5) 魚貝類等 (魚類ボラ目ボラ科ボラ、甲殻類十脚目ベンケイガニ科クロベンケイガニ)



クロベンケイガニ

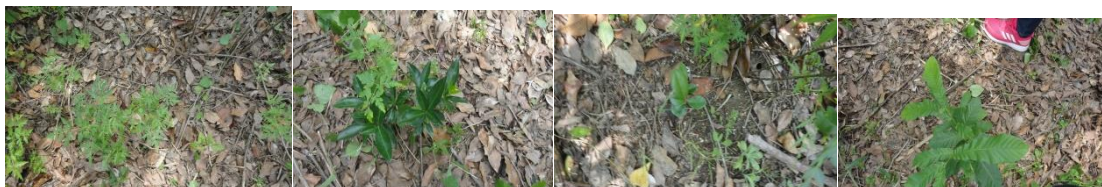


きのこ類 (担子菌門ハラタケ綱タマチョレイタケ科アラゲカワラタケ)

(6) 植物 A 樹木 {エノキ含実生、ムクノキ含実生、クスノキ含実生、アキニレ含む実生、トベラ、シャリンバイ実生、ウバメガシ実生、ヒイラギ、ナンテン含実生、センダン含実生、マサキ実生、オニグルミ実生、クスギ植栽、マンリョウ、ノイバラ、クコ、及び外来種 (トウネズミモチ含実生、ナンキンハゼ、タチバナモドキ)}



エノキ実生 (アサ科)、ムクノキ実生 (アサ科)、クスノキ実生 (クスノキ科)、オニグルミ実生 (クルミ科)



センダン実生 (センダン科)、マサキ実生 (ニシキギ科)、ウバメガシ実生 (ブナ科)、クスギ実生 (ブナ科)



トウネズミモチ (モクセイ科)、ナンキンハゼ (トウダイグサ科)、タチバナモドキ (バラ科)

B 蔓植物 (センニンソウ、アオツヅラフジ、コヒルガオ)



センニンソウ (キンポウゲ科) (有毒植物) アオツヅラフジ下 (ツヅラフジ科) コヒルガオ (ヒルガオ科)

C 草本 {ヨモギ、ヤブカンゾウ花、メハジキ、ヨモギ、ヨシ、セイタカヨシ、ヤハズエンドウ、ツユクサ、及び外来種 (セイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、コゴメイ実、シロツメクサ花、ヒメジョオン花、ヤノネボンテンカ、ヒガンバナ、イヌコモチナデシコ花、アレチハナガサ花、ダキバアレチハナガサ花、チチコグサモドキ実、ネズミムギ実、ケアリタソウ、セダム・モリムラマンネングサ)}



ヤブカンゾウ (ススキノキ科)、メハジキ (シソ科)、ツユクサ (ツユクサ科)、セイタカヨシ (イネ科)



アレチハナガサ (クマツヅラ科) セイタカアワダチソウ (キク科) コゴメイ (イグサ科) ヤノネボンテンカ (アオイ科)



チチコグサモドキ (キク科)、オオアレチノギク (キク科)、ネズミムギ (イネ科)

(7) 大空広場の外来種 (シロツメクサ、ヒメジョオン、ベニバナセンブリ、イヌコモチナデシコ、ニワゼキショウ、ホソムギ、ヒメモロコシなど)



シロツメクサ (マメ科) ヒメジョオン (キク科) ベニバナセンブリ (リンドウ科) イヌコモチナデシコ (ナデシコ科)



セイヨウタンポポ（キク科）オッタチカタバミ（カタバミ科）マメグンバイナズナ（アブナ科）ヘラオオバコ（オオバコ科）



ヒメモロコシ（イネ科）、ホソムギ（イネ科）、アメリカネナシカズラ（ヒルガオ科）、コメツブウマゴヤシ（マメ科）



ニワゼキショウ（アヤメ科）、ユゲショウ（アカバナ科）、四葉のクローバ見つけたり

参考1 食用・薬用植物等

エノキ（実食用）、ムクノキ（実食用）、クスノキ（樹皮は防虫剤樟脳の原料）アキニレ（実食用）、オニグルミ（実食用）、センダン（実・葉・樹皮は駆虫剤）、シャリンバイ染料（樹皮は大島紬の染料）、クコ（実薬用、葉はお茶に用いる）、ナンテン（実・葉は有毒植物で薬用・麻痺等に用いる）、ヨモギ（草餅等で食用、もぐさ、止血に用いられる）、メドハギ（益母草と呼ばれ保健薬とした）、ヤブカンゾウ（蕾・葉・根は食用・薬用として用いる）、ヒガンバナ（鱗茎は有毒植物であるが薬用としても用いる）、セイヨウタンポポ（全草食用）、イタドリ（茎葉は食用量を過ぎると下痢する）、ヨシ（葦簀として用いる）、ヤハズエンドウ食用（全草を天ぷら、炙り茶とし用いる）、ヒガンバナ（薬用・有毒植物）

参考2 昆虫類の食餌植物

エノキ（ゴマダラチョウ、オオムラサキ、テングチョウ、タマムシ等）
アキニレ（ニレハムシ）
クスノキ（アオスジアゲハ）
カタバミ（ヤマトシジミ）

ヨモギ（ヨモギハムシ）

シロツメクサ（モンキチョウ）

セイタカアワダチソウ（セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ）

なお、アブラムシ類はナナホシテントウムシに食べられている。

参考3 万葉集に詠われている分布植物

アオツヅラフジ（都豆良ツヅラ）、アキニレ（毛武爾礼もむにれ）、エノキ（榎え）
クヌギ（櫟つるばみ）、コヒルガオ（容花かほばな）、センダン（棟あふち）、チガヤ（茅ちばな）、ツユクサ（鴨頭草つきくさ）、ノイバラ（茨うまら）、ヒガンバナ（壱師いちし）、ヘクソカズラ（糞葛くそかづら）、メハジキ（土針つちはり）、ヤブカンゾウ（忘草わすれぐさ）、ヨシ（葦あし）、ヨモギ（蓬よもぎ）の15種

環境学習会の様子



船でいよいよ豆島に上陸作戦開始前の注意事項を船頭さんよりお話



船で上陸して豆島の植物、昆虫、鳥、魚の事をみんなで学ぶ

3年生保護者様

令和3年6月18日

尼崎市立園田東小学校

環境体験学習で豆島へ行きます！

1 日程 令和3年6月29日（火）2～4校時（9:35～12:20）

※雨天や台風の影響がある場合は6月30日に延期します。

2 お知らせ

- ① 普段通りの登校ですが、遅刻がないようにしてください。
- ② 給食までには学校に戻ります。
- ③ 活動では豆島を歩きます。虫が多くなりますので、服装に関しては以下の表を参考に、お子様と一緒にチェックしていただきますよう、お願いします。

3 服装と当日の持ち物

服装（汚れてもよく、動きやすいもの）

- ☐ 長そでの上着（下に着る服は、半そででもかまいません）
- ☐ 長ズボン
- ☐ 足首がかくれる長さの靴下。
- ☐ 歩きやすいくつ
- ☐ 赤白帽

当日の持ち物

- ☐ ランドセル
- ☐ 汗ふきタオル
- ☐ ポケットティッシュ
- ☐ 水とう
- ☐ ふでばこ
- ☐ スタブラ
- ☐ 給食袋
- ☐ 国語と算数の用意



当日までの体調管理をしっかりとしましょう！！